



三島 日本大学

同窓会々報

第 8 号

昭和52年11月3日

静岡県三島市文教町2

日本大学 三島 同窓会 発行

幹事会

開催される

―常任幹事選出など―

昭和五十二年度日本大学三島同窓会幹事会は、六月二十四日(金)十八時より、母校三島校舎八号館において六十八名の幹事出席のもとに行われた。

会は瀬川事務局長の司会で進められ、種房繁会長の挨拶の後、議長団・書記の選出が行なわれた。

議長に渡辺勝一氏、副議長に井川一見氏を、書記には柴田正氏、榎本睦美さんをそれぞれ選出し議事に入り、次の事項を可決承認した。

一、昭和五十一年度事業報告

二、昭和五十一年度決算報告

(以上六頁参照)

三、三島学園開設三十周年記念事業報告

四、三島学園開設三十周年記念決算報告

(以上会報第七号参照)

五、昭和五十二年事業計画

六、昭和五十二年予算案

(以上七頁参照)

七、常任幹事選出

(三頁役員名簿参照)

なお、事業関係は瀬川一男事務局長、予算・決算関係は石川貞夫会計担当常任幹事よりそれぞれ説明、監査報告は中島敏男会計監査により行なわれた。また、常任幹事は大いに若がえることと、三島周辺の者をということで選出が行なわれた。

幹事会終了後、同館別室で土屋貞男氏の司会で懇親会が開催された。種房繁氏の挨拶、山内茂氏の

音頭で乾杯し、なごやかなうちに会は進められ、一同楽しいひとときを過ごした。話題は尽きず、司会者は閉会の時刻を見つけるのに一苦労、ようやく二十時三十分、中塩利雄氏の音頭で万歳三唱し、閉会した。

奥田副会長

三島市長に就任

本会副会長である奥田吉郎氏が去る一月二十三日に行なわれた、三島市長選で見事当選され、二月七日より市長に就任した。母校三島学園のある三島市に、同窓生市長が誕生したことは、誠によろこばしいことであり、氏の活躍を大いに期待したい。

東副会長は

沼津市議会副議長に

奥田・遠藤両氏とともに、昨年の総会で副会長に選出された東賞平氏は、去る十月十五日の沼津市議会で副議長に選出された。多難な沼津市で、同氏の副議長としての活躍は期待するところ大である。

種房会長は東洋醸造

財務部長に栄転

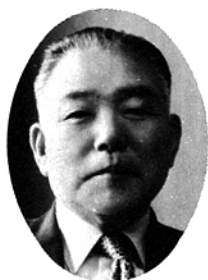
本会会長である種房繁氏は東洋醸造(株)名古屋支店長より同社の本社財務部長に栄転し、十一月二日着任した。同社での種房氏の活躍はもちろん、本会にとっても会長が三島に近い東京勤務ということによるこぼしいことであり、本会の発展のため頑張っていたきたい。

安藤文理学部(三島)次長急逝

文理学部(三島)次長・短期大学部(三島)次長の要職にあった安藤公平教授は、四月十三日午前一時三十三分、心筋梗塞のため、三島市芹沢病院において急逝された。享年六十四才。恩師安藤先生は三島学園に昭和二十一年より勤務され、心理学を学生に教えられた一方、学監・次長の職に永くあつて、三島学園発展のため尽力されてきたが、突然急逝されたことは痛恨の極みである。

安藤家における葬儀は、東京の源正寺において、四月十五日十三時三十分より、妻倉文理学部長が葬儀委員長となり行なわれた。当日は先生をしたう同窓生多数が参列した。

このたび、私は図らずも、故安藤教授の後をつぎ、文理学部三島次長・短期大学部三島次長兼三島高等学校長に任命されました。もとより浅学非才ではあ



りますが、全教職員の御協力を得て、なんとか重責を果たしたいと存じます。何とぞ、同窓生諸君の御理解と御支援を心からお願いいたします。

なお、三島学園葬は母校三島の八号館で五月二十三日午後二時より、約千名の教職員・学生・卒業生、その他内外の関係者出席のもと、おごそかにとり行なわれた。

後任に玉津教授就任

安藤先生の後任として、玉津徳太郎教授が四月十四日付で就任された。先生は北海道のご出身で、昭和二十二年より三島学園に勤務され、学生課長・学生指導委員長を十数年にわたり勤められた後、付属三島高校長に就任され現在に至つた。なお、先生は短期大学部(三島)次長・付属三島高等学校校長兼務であり、非常な激職となるので

想うに、三島学園創立の年に安藤教授は御就任になり、その翌年に私は就任いたしました。以来、私共は本学創業の父、秋葉安太郎博士、鈴木昇六先生の

先生のご健康を心から祈りたい。
各科・各期同窓会
各所で盛んに開催される

商経科二部同窓会

短大(三島)商経科同窓会は五月二十四日、三島学園八号館で開催された。今回は女性会員も含め百名近い出席で、終始和やかな雰囲気につつまれて進められた。とくに若い人の参加が多く新鮮味があふれていた。会長に東賞平氏、副会長に横山栄蔵氏が再選されたが強い団結のもと一層の発展が期待される。

文科同窓会

短大文科同窓会「桜文会」は三月六日、母校より恩師の内山先生をはじめ多数の先生方をお迎えし

これからは、安藤教授の敷かれた教育路線に立脚すると共に、学生生活を諸思索の前提とし、学生福祉の増進を第一義にして行きたいと存じます。同窓会に

御挨拶

文理学部(三島)次長
短期大学部(三島)次長

玉津徳太郎

もとに、協力して勤めさせて頂き今日にいたりました。この関係から私は、安藤教授の教育施策とその路線については、よく理解している心算であります。

あつても諸氏の理解ある行動により、学園の内外共に平和のうちに民主的恩沢が実現するよう念願して御挨拶いたします。

て、沼津市の桃中軒会館で、開催された。
今回はとくに役員の改選がおこなわれ新会長はじめ次の方々が選出された。

家政科同窓会

短大家政科同窓会「桜栄会」は三月二十日、山本家政科長をはじめとする恩師の先生方をお迎えし三島市のグランドホテルで開催された。例年通り新入会員の歓迎会が併せ行なわれた。

総会で選出された主な役員を紹介すると

会長 平井 千枝
事務局長 市川 紀子
" 芹沢 絹代
" 坂田 裕子
" 伊丹 裕子
" 内田 陽子
" 飯山 栄子
" 秋山 紀子
" 木村 裕子

予科クラス会

予科文科の昭和二十二年入学のAクラス会「三徳会」は三月二十七日、新東京ホテルにおいて開催された。恩師玉津徳太郎先生をお迎えし、会員二十二名参加、なごやかな会であつた。発起人は秋

山正幸、長田渉、西村美枝子、守屋喜久夫、渡辺郁の諸氏である。



二期生会

教養部二期(予科昭和二十三年入学)の会は、六月・富士山中腹の日本ランドホテルを貸切り開催された。同期生七百余名の同会は、一昨年東京で八十名を集め全体会として開催された。本年は若干不便だが、一泊でゆつくり行ない、とくに三島市長就任の奥田吉郎氏の祝賀会も併せた会であつたが、二十余年前の学生時代そのままに楽しい一夜を過ごし、翌日はまたゴルフ大会が開催され、佐々木健夫氏が優勝した。

なお、同会の会長は中島信行氏幹事は木村幸夫、勝俣敏充、柳下孝子、杉山吉房、芦沢克治、瀬川一男の諸氏であり、芦沢氏は同ホテルも管理する富士急行の取締役、日本ランド遊園社長。

日本大学三島同窓会役員一覧

昭和51年11月3日改選

会 長	種房 繁	幹 事	西村美枝子 (長谷川)	幹 事	道見 俊広	幹 事	望月 和衛
副 会 長	奥田 吉郎	幹 事	中浜 卓弥	幹 事	渡部 浩司	幹 事	江本 博勝
副 会 長	東 賞平	幹 事	中塩 利雄	幹 事	市橋 悟	幹 事	秋山 稔明
副 会 長	遠藤 逸雄	幹 事	北條 晃	幹 事	朴沢 英憲	幹 事	山口 茂野
事務局長	瀬川 一男	幹 事	長田 涉	幹 事	平井 千枝	幹 事	牧野 和代
常任幹事 (会計担当)	石川 貞夫	幹 事	山内 茂	幹 事	吉野 洋一	幹 事	石井千枝子
常任幹事 (庶務担当)	角田 義廣	幹 事	中島 信行	幹 事	横田 晋郎	幹 事	前田 正丈
常任幹事	西村 満男	幹 事	木村 幸夫	幹 事	鈴木 肇	幹 事	藤本 哲雄
常任幹事	宮沢 主計	幹 事	勝俣 敏充	幹 事	御供 政紀	幹 事	野田 栄
常任幹事	井川 一見	幹 事	杉山 吉房	幹 事	小沢 文郎	幹 事	秋山 紀子
常任幹事	市川 紀子	幹 事	柳下 孝子	幹 事	小石川宣照	幹 事	久幸 克己
常任幹事	高田 菊平	幹 事	芦澤 克治	幹 事	大西 良雄	幹 事	瀬川 宏
常任幹事	久保田 勝	幹 事	石川 進	幹 事	小川 武司	幹 事	遠藤日出男
常任幹事	内藤 正昭	幹 事	白鳥 義仁	幹 事	谷崎 邦昭	幹 事	渡辺 博夫
常任幹事	佐野 勝己	幹 事	宮崎 茂樹	幹 事	栗山 康雄	幹 事	藤幡 利一
常任幹事	小出 博	幹 事	渡辺 勝一	幹 事	荒木とよ子	幹 事	江川 洋
常任幹事	土屋 忠得	幹 事	辻 省二	幹 事	宮下 正俊	幹 事	矢沢 知秋
常任幹事	柴田 正	幹 事	鈴木 邦良	幹 事	田中 義人	幹 事	小松 省二
常任幹事	土屋 貞明	幹 事	浅原 好胤	幹 事	浅見 元	幹 事	石橋 正雄
常任幹事	小早川隆義	幹 事	今関 邦彦	幹 事	上田 定義	幹 事	田村 実
常任幹事	宮沢 愛子	幹 事	佐藤 力男	幹 事	荻野谷 肇	幹 事	芹沢 絹代
常任幹事	染谷 徳昭	幹 事	田村 栄一	幹 事	中山 義昭	幹 事	坂田 裕子
常任幹事	田中 由雄	幹 事	宮澤 基人	幹 事	吉田 力	幹 事	内田 陽子
常任幹事	相田 信次	幹 事	鈴木 稔	幹 事	雨角 勇	幹 事	飯山 栄子
常任幹事	鈴木 正八	幹 事	上野 実	幹 事	瀬村 隆治	幹 事	木村 裕子
常任幹事	久保田博明	幹 事	見上 勇逸	幹 事	林田 孝二	幹 事	横山 栄蔵
常任幹事	榎本 睦美	幹 事	関本 文彦	幹 事	野際 賢治	幹 事	加藤 晴俊
常任幹事	伊丹 裕子	幹 事	真部 義孝	幹 事	長倉 良幸	幹 事	井上 政義
会計監査	持田 光雄	幹 事	結城 勇一	幹 事	松下 敬子	幹 事	宮川 守
会計監査	中島 敏男	幹 事	小椋 貞夫	幹 事	平岩美知子 (金子)	幹 事	加藤 博昭
幹 事	高田日出太郎	幹 事	坂詰 正衛	幹 事	浜田 義之	幹 事	津田 正克
幹 事	馬場 康夫	幹 事	鈴木 義樹	幹 事	菅野 利幸	幹 事	岩崎 尚枝
幹 事	中野 繁	幹 事	望月 知林	幹 事	前山 良光	幹 事	関野世津子
幹 事	石川 三雄	幹 事	丸山富美男	幹 事	影山貴美枝	幹 事	小永井京子
幹 事	小野 真一	幹 事	麓 高明	幹 事	山口 良児	幹 事	谷村美佐子
幹 事	米内 国夫	幹 事	安東 安生	幹 事	深井 富雄	幹 事	長倉 隆子
幹 事	澤 直和	幹 事	田嶋 文義	幹 事	早川 清文	幹 事	小島 洋子
幹 事	滝川 昇	幹 事	寺崎 哲郎	幹 事	河田 哲雄	幹 事	杉山 謙
幹 事	秋山 正幸	幹 事	関 哲男	幹 事	加藤 久貴	幹 事	黒滝 祐司

故安藤公平先生を偲ぶ



未だ信じられない 先生の死

山内 茂



同窓の者は先ず私に書かせることが、適当であろうとの配慮のもとに、課題を与えてくれたのであ

ろうが、もらった方は人の気持も知らないで、何んと残酷なことを課すのだらうと、自分本位に解釈をした。そんなわけで、しばし筆をとらずにいたわけである。
安藤先生の逝去はたしかに現実で、葬儀に参列をしてお別れもしたが、余りにも突然であつて、幻想の世界の出来事のように未だ信

じられない。今日にも先生からの電話で、例のボソボソと要件のみを云われる声が、聞かれるような気がしてならない。

昭和二十二年三島予科に入学した時、寮の部屋の前に先生ご一家がお住いで、何かとお世話になったが、予科二年の始めに心理学を専攻しようと志し、先生に申し出てからは、公私をとわず、心理学徒としてのお導びきをしてくださった。

学部に進むと演習があり困らないようにと、放課後先生に用事がない限り、毎日原書講読を続けて下さったり、卒業論文にかかった時には、文献を探して下さいでなく、ご自分がお使いになつて便利だったからと、統計用紙にいたるまでご心配を賜つた。

就職に際して、勤務先の上司に挨拶をして下さつただけでなく、私が転動した所には必ず見えられ廻りの者によりしく頼むと挨拶をされるのが習わしであつた。

それだけ先生にしてみれば、私が心理学徒として育つて行くことを期待されたのであらうが、未だ恩師の学域の末端にも辿り着けず遺稿となつた知能心理学研究と、形見に奥様から頂戴した Freeman Psychological Testing を机上

に置いて、ただ先生の追憶の中で茫然としている不肖の弟子では、先生には冥府でもなお心配をされておられることであらう。

(昭和22年予科在学・横浜市児童課長)



(玉津先生と共に)



(奥田市長誕生を祝つて)

安藤先生略歴

大1・12	岐阜県可児郡に出生。
昭6・3	東京府豊島師範学校本科第二部卒業。
昭14・3	日本大学法文学部文学科を卒業。心理学を専攻する。
同・4	日本大学心理学教室、研究員となる。
昭15・	日本大学文学部予科講師となる。
昭19・4	海軍技術研究所、業務嘱託となり、奏任待遇をうけた。
昭21・10	日本大学三島予科専任講師、翌年予科教授となる。
昭24・	学制改革により、文学部助教授となる。
昭29・5	教授に昇格。
昭33・4	文学部(三島)学監となる。
昭35・3	心理学研究のため欧米へ出張。
昭39・3	「成業の予見について」の研究により、文学博士の学位をうける。
昭40・4	文学部(三島)次長短大(三島)次長兼任
昭44・2	日本大学評議員となり
昭50・9	日本私学短期大学協会理事に就任。
昭52・4	学界並びに教育界に貢献した功績により、勲四等旭日小授章が追贈せられた。

先生は真の意味の教育者

岡 本 健



安藤公平先生のご生涯をふりかえってみて、なによりもまず触れなければならぬのは、先生が教育者であったということである。ここにいう教育者とは、大学に勤務しておられたからという意味ではなく、真の意味での教育者であり、先生ご自身もそれを目指しておられたということである。先生は師範学校卒業後、十数年にわたって小学校教師として児童の教育に献身された。その後、志をたてて日本大学に学ばれ心理学を専攻されたのも、現場における教育上の諸問題をいかにして解決するかということが、そのきつかけになったに相違ない。以後、心理学者としての先生が心血を注がれた、成業の予見や知能に関するご研究は、いずれも現場における教育との関連から発展してきたものである。

先生の日本大学における最大の功績は、附属高校からの進学者にたいする統一入試制度を完成させたことであろう。数多くの有能なるスタッフを動員され、その計画

から実施にいたる過程はあくまでも教育心理学的配慮を忘れず、各種のデータを駆使してついに統一テストのシステムを完成させ定着させた功績は非常に大きい。先生の生涯のご研究の集大成という感じにする。弟子である筆者がひそかに希っていたのは、先生に日本大学の最高責任者の職についていただき、現在の各学部のデータメナ教科課程を再編成していただくことであった。先生ご自身もこういった仕事にかならずしも無関心ではなかったと拝察するが、残念のきわみである。

先生のご生涯は努力と克己のご一生でもあった。それについて詳述する紙幅はないが、身近かに接した筆者にとつては、先生は人間というよりは超人であり、決して真似のできない存在でもあった。助手としてお仕えした八年間、先生を師表として努力したがついにそれはかなわぬことと諦め、そのことを先生に申し上げたことを思い出す。先生のご生涯は、いかにして人間が不断の精進によって超人となりうるかというひとつの見本でもある。

ご逝去以来すでに半歳、あまりにも非凡なる超人に仕えた凡人の悲哀を嘆きながらも、そこにまた先生のアキレス腱もあったと不遜にも考えることもある今日此頃である。

(昭26・文学部在学・日本大学 助教役)

心づかいの細やかな先生

篠 田 輝 子



露涼し湖畔へつゞく下り坂
数年前の初冬の一日、旧い教え子たちが先生の還暦の祝いを、上野の森で催したことがあった。その時下さった句である。出席者全員が、先生が多忙な校務の合間に

句を作られ、書き上げられたであろう色紙を、それぞれ丁寧に戴いたのである。

先生は珍しくも奥様同伴で見えになった。歓をつくした宴終つて、私が駅までお送りしようとする、先生は笑って、「これから水入らずで帰るからいいよ」とおっしゃり、かたわらの奥様をうながされて、葉を落した樹々の繁みの中へ歩み去られたお姿が眼に残っている。

その会で、ご挨拶に立たれた先生は、「今後の余生を後進のため云々」とおっしゃったが、露涼

しの句といい、今思えばすでにご自分ののこり少い生涯を予感していられたのではなからうか。

先生は非常に心づかいの細やかな方であった。すべてを知りながら、そつと遠くから見守って下さるようなところがあった。

教え子たちの消息を大変喜ばれて、「〇〇が所長になったよ。いつか行ってみよう」などと、吾が子の栄進を喜ぶようなご様子であった。

最後にお目にかかったのは、次長室前の廊下である。いつものように、「おつ、どうした」のお声とともにいたゞいたのが、教育の軌跡のお著書であった。

(昭23・三島予科在学・日本大学(三島)講師)

先生の教えを人生に生かしたい

中 神 茂



過日、級友より安藤先生の訃報に接し、あの元気な先生が、他界されたとは、あまりのことゆえ、信じられませんでした。

先生の学園葬には、私がクラスを代表して、告別式に参列させて

戴き、いつも変らぬ先生の笑みをふくんだ靈に、御冥福を祈るのみでした。

思えば、昭和三十一年の春、富士山を遙かに望む、桜の咲きほころぶ学舎に入學し、現在のモダンな校舎と違って、未だ兵舎の面影の残る校舎で、学生生活が始まり、担当教授として、安藤先生が、我々の三島での二年間を公私に渡り面倒を見て下さいました。

私が、心理学に興味を持ち、引かれていったのも、先生の心理学に対する情熱と、その温かみのある、ひたむきな学問への姿であつ

たと思います。私が自治会の本部役員を勤められたのも、先生の温かい理解のためのものでした。

昭和五十年に、東京在住の友人の音頭で、十九年ぶりに、同窓会を開き、先生にも、忙しい時間をさいて出席して戴き、学生時代に還つて、和氣満々の内に、先生共々、旧交を温められ、先生も満足されておられた事が、今でも昨日の如く思い出されます。

学園長の職務が、先生の生命を蝕んだとすれば、真にその短命を嘆き悲しんでも、つくるものではありません。安藤先生の教えを人生に生かすことで、菩提を弔いたいと思います。永久に私の心に生き続ける先生を慕いつつ、合掌。

(昭31・32法学部在学・群馬県桐生市在住)

昭和51年度 事業報告

1. 奨学金の給与並びに同窓会長賞授与

昭和51年度日本大学文理学部（三島）在学生より、次の者が推薦された。短大関係は、3月24日の卒業式当日、学部教養課程関係は、4月10日の三島校舎開講式当日、それぞれ授与式が行われた。

奨 学 金 1名 石川 徹（法）

同窓会長賞 8名 戸塚隆子（国文）、菅尾和代（英文）、赤須弥生（商経）、島田 記（二部）、山崎明美（家政）、草開いづみ（食栄）、藤原公男（機械）、武田俊秀（建築）

1. 学園歌集発行

学園歌19首を36頁に収め、5,000部を発行し、三島校舎新入生全員に入学祝として渡した。（別紙歌集参照）

1. 会 報 発 行

会報第7号、51年12月1日発行 16頁 6,000部（別紙会報参照）

1. 会員名簿発行

会員名簿のうち、家政科・文科の分が発行された。（会報7号2頁参照）

1. 総会並びに懇親会

昭和51年11月3日（休）16時から、総会並びに懇親会を、日本大学文理学部（三島）記念館で開催した。（会報第7号13頁参照）

1. 幹 事 会

昭和51年6月10日（休）18時から、日本大学文理学部（三島）8号館で開催した。（会報第7号2頁参照）

<三島学園開設30周年記念事業報告>

- (1) 記 念 品 ピアノ「コンサートグランドピアノCSⅡ」を寄贈した。
- (2) 記 念 行 事 文学座「ハムレット」を10月4日三島市公会堂で公演した。
- (3) 福祉事業に寄付 三島市福祉事業に金10万円を寄付（会報7号12頁参照）

昭和51年度 収 支 決 算 書

（昭和51年4月1日～昭和52年3月31日）

（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	140,000	97,260	42,740	会 費 収 入	1,430,000	1,442,500	△ 12,500
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	195,000	5,000	利 息 収 入	550,000	598,177	△ 48,177
同 窓 会 報 発 行 費	400,000	300,000	100,000				
各 科 同 窓 会 補 助 費	500,000	515,000	△ 15,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	250,000	203,870	46,130				
会 議 会 合 費	200,000	243,210	△ 43,210				
通 信 運 搬 費	100,000	24,310	75,690				
事 務 費	50,000	17,820	32,180				
雑費(消耗品・慶弔・旅費・雑費)	150,000	21,540	128,460				
30周年記念事業費	1,500,000	1,490,000	10,000				
予 備 費	300,000	0	300,000				
計	3,790,000	3,108,010	681,990	計	1,980,000	2,040,677	△ 60,677
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	1,700,000	1,000,000	700,000
次 年 度 繰 越 金	58,244	100,911	△ 42,667	前 年 度 繰 越 金	168,244	168,244	0
合 計	3,848,244	3,208,921	639,323	合 計	3,848,244	3,208,921	639,323

貸 借 対 照 表

（昭和52年3月31日現在）

（単位：円）

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	915,911	前 受 金 (52年度会費)	610,000
定 期 預 金	7,000,000	基 金	7,400,000
前 払 金 (52年度学園歌集)	195,000	前 年 度 繰 越 額	8,400,000
		本 年 度 繰 出 額	△ 1,000,000
		次 年 度 繰 越 金	100,911
合 計	8,110,911	合 計	8,110,911

昭和51年度収支について関係帳簿ならびに証憑書類を精査の結果、正確であることを認めます。

昭和52年6月22日

会計監査 持 田 光 雄 ㊞
中 島 敏 男 ㊞

昭和 52 年度 事 業 計 画

1. 奨学金給付並びに同窓会長賞授与

日本大学文理学部（三島）を昭和53年3月卒業（短大）、移行（学部教養課程）の者を対象として行う。

教養課程（法、経、商、文理）……………各1名宛奨学金

短大各科（専攻別）……………各1名宛奨学金または同窓会長賞

1. 学園歌集発行

昨年とまったく同じ内容で5,000部を印刷、新入生に渡す。

1. 会 報 発 行

会報第8号（11月上旬）発行 8 頁 5,000部

会報第9号（2月上旬）発行 8 頁 5,000部

1. 名 簿 発 行

会員名簿作成を推進する。更に短大科別、教養期別名簿作成を推進する。

1. 総会並びに懇親会

昭和52年11月3日(木)16時から開催する。

1. 幹 事 会

昭和52年6月24日(金)18時から日本大学文理学部（三島）8号館において開催する。

昭和 52 年度 収 支 予 算 書

（昭和52年4月1日～昭和53年3月31日）

（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	本年度予算	前年度予算	増 減(△)	項 目	本年度予算	前年度予算	増 減(△)
奨 学 費	150,000	140,000	10,000	会 費 収 入	1,500,000	1,430,000	70,000
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	200,000	0	利 息 収 入	430,000	550,000	△ 120,000
同 窓 会 報 発 行 費	450,000	400,000	50,000				
各 科 同 窓 会 補 助 費	100,000	500,000	△ 400,000				
総会並びに懇親会費	250,000	250,000	0				
会 議 会 合 費	300,000	200,000	100,000				
通 信 運 搬 費	100,000	100,000	0				
事 務 費	50,000	50,000	0				
雑費(消耗品・慶弔・旅費・雑費)	150,000	150,000	0				
30 周 年 記 念 事 業 費	0	1,500,000	△1,500,000				
予 備 費	200,000	300,000	△ 100,000				
計	1,950,000	3,790,000	△1,840,000	計	1,930,000	1,980,000	△ 50,000
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	1,700,000	△1,700,000
次 年 度 繰 越 金	80,911	58,244	22,667	前 年 度 繰 越 金	100,911	168,244	△ 67,333
合 計	2,030,911	3,848,244	△1,817,333	合 計	2,030,911	3,848,244	△1,817,333

母校三島学園の一年

昭和五十二年

賀詞交換会（一月三日）

授業開始（一月十一日）

三島成人式（一月十六日）

後期試験

（一月二十六日～二月九日）

移行式（二月十二日）

附属三島高校入学試験

（二月二十二・二十三）

附属三島高校卒業式（三月一日）

短大入学試験

文科・家政科（三月十日）

商経科（二月二十二日）

工科・商経科二部（三月十三日）

卒業式（三月二十四日）

日本武道館において挙行された

短大謝恩会（三月二十四日）

文科・家政科・商経科は帝国ホ

テル、工科は（建）九段会館、

（機）後樂園飯店、商経科二部

は（三月十四日）三島プラザホ

テルでおこなわれた。

附属三島高校入学式（四月七日）

入学式（四月八日）

東京・日本武道館

新入生ガイダンス（四月十一日）

十三日）

新入生歓迎会（四月十二日）

クラス委員連絡会議・三島学友

会主催、シェリー・エルザ・江

口有子・寺内タケシとブルージ

ーンスを迎えて新入生歓迎音楽
会を開催

安藤公平教授急逝（四月十三日）

葬儀は四月十五日、源正寺でお

こなわれた。

玉津徳太郎教授文理学部次長就任

（四月十四日）

全学ピクニック（五月二十日）

バス六十台をつらねて約三〇〇

〇名の学生が富士五湖一周に参

加して実施された。

故安藤公平教授三島学園葬（五月

二十三日）



（ピクニック）

クラ連・学友会委員研修会（五月

二十八日～二十九日）

三島体育大会（六月五日）

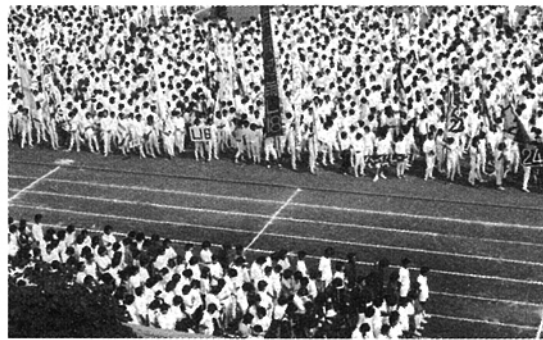
優勝 男子L十八クラス

女子国文I Bクラス

文化団体発表会（六月二十四日）

二十五日）

八号館および学生ホール



（体育大会）

前期授業終了（七月九日）

夏期休暇

（七月十一日～九月十日）

文科二年研修旅行（台湾・香港・

マカオ）（七月十日～十五日）

家政科二年研修旅行（家政）韓国

（七月十七日～二十二日）（食

栄）韓国（七月二十七日～八月

一日）

前期試験

（九月十九日～十月一日）



（大学祭）

後期授業開始（十月五日）

全日大体育祭（十月十三日）

東京国立競技場 三島学園から

は約三、〇〇〇名の学生、教職

員が参加。

全日大体育祭バスケットボール大

会（十月十五日～十六日）

三島校舎体育館

第二十七回大学祭（十一月二日）

四日）

一日 開会式・オープニングパ

レード（市中行進）初日祭

二日 講演 映画評論家・淀川

長治氏ほか

三日 今陽子ビッグショウ・閉

会式・ほか

授業終了（十二月二十日）

冬期休暇

（十二月二十一日～一月十日）

事務局だより

◇昨年、三島学園開設三十周年と
いうことで、一つの区切りをつけ
たわけですが、同窓会としても、
創草期に別れを告げて、今年から
は組織的な発展を目指して、会員
諸氏の御助力を得ながら、頑張っ
て行きたいと思っています。

◇不幸なお知らせですが、文理学
部次長の安藤公平先生が、四月十
三日未明、心筋梗塞のため急逝さ
れました。それで今回はとくに、
追悼のページを設けて編集いたし
ました。

◇六月の幹事会で、新役員顔ぶ
れが決まりました。常任幹事は、
地元の若手メンバーで固めており
会合の連絡、集まり具合は大変成
績よく、運営されております。

幹事には、附属三島高校同窓会、
商経科同窓会、桜文会、桜栄会か
ら、今回改めて数名ずつ加わって
頂き、会の勢力増大をはかりまし
た。

◇会報第八号は、すでに発行され
ていなければならなかったわけで
すが、編集が思うようにまかせず
本年度総会後におくばりするとい
うことになってしまいました。紙
上をお借りしまして、お詫び申し
上げます。会員のつながりは、会
報の記事により、学校のこと、会
員の消息のこと等知って頂くこと
により、保たれるわけですが、こ
れからも、折にふれ話題を提供し
て頂きたいと思っております。